

「環境とくらしを守る下水道」を 未来へとつなげていきます

昔から人々の暮らしを支えてきた多摩川などの河川では、下水道整備が進む以前は水質汚濁等が大きな問題になっていましたが、今や人々の憩いの場となるまでに水辺環境が改善しています。

調布市では下水道分野のマスタープランとして平成23(2011)年3月に、「調布市下水道総合計画」を策定し、計画的かつ総合的に事業を推進してきました。

近年、異常気象により災害が激甚化しており、令和元年10月の台風第19号では市内でも浸水等による被害が発生しました。水害への備えを検討する中で災害対策のひとつとして下水道の果たす役割の重要性を再確認したところです。一方、下水道の老朽化は進行しており、その機能を将来にわたり維持することは喫緊の課題となっています。また、今後の維持費の増加や中長期的な人口減少に伴う、下水道使用料収入の減少が及ぼす経営への影響も懸念されます。

こうした時代情勢や社会的要請の変化を踏まえ、次期下水道総合計画として、令和3(2021)年度から令和12(2030)年度を計画期間とする「調布市下水道ビジョン」を策定いたしました。

本ビジョンにおいては、新たに“下水道施設の機能維持”“組織対応力の向上”“持続的な経営の確立”の3つの基本方針を定めるとともに、財政シミュレーションをはじめ今後の経営状況の分析を行い、下水道事業の方向性を示しています。

本ビジョンに基本理念として掲げた「環境とくらしを守る下水道」を未来へとつないでいけるよう取り組んでまいりますので、市民の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。



令和3(2021)年3月

調布市長 長友 貴樹